

末吉橋 詳細個別施設計画（架替事業）

1. 事業対象橋梁

橋梁名 末吉橋（上り線・下り線）
事業箇所 横浜市 鶴見区上末吉五丁目96番1地先から
川崎市 幸区小倉五丁目1687番3地先まで
竣工年 末吉橋（上り線）：昭和25年（1950年）
末吉橋（下り線）：昭和39年（1964年）
橋下条件 河川（一級河川 鶴見川）

2. 事業概要

末吉橋は、第一次緊急輸送路である県道鶴見溝ノ口線上にあり、1級河川鶴見川に架かる橋梁です。橋梁の上流側が昭和25年（1950年）、下流側が昭和39年（1964年）に建設されており、老朽化が進行しております。他方、橋を通行する車両の大型化の進行、車道・歩道との幅員が狭小であることに起因した交通渋滞・歩行者の通行への支障発生、緊急輸送路として必要な機能確保等の観点から対策が必要となっております。

上記の課題に対応するため、下記のとおり、末吉橋の架け替えを行います。

新旧橋梁比較

	新橋	旧橋
橋長	108.00 m	107.86 m
幅員	18.8 m（路肩・地幅含む）	13.3 m（中央帯・路肩・地幅含む）
幅員構成	車道 3.25m × 2 + 3.00m × 1 歩道 3.75 m × 2	車道 4.5 m × 2 歩道 1.5 m × 2
構造形式	3径間連続プレビーム合成桁橋 逆T橋台（鋼管杭基礎）2基 張出式橋脚（鋼管矢板基礎）2基	5径間単純RC床板鋼板桁橋 控壁式橋台（松杭・鋼管杭）4基 RCラーメン橋脚（松杭・鋼管杭）8基

3. 事業計画

事業内容 橋梁架替（更新）
時期 平成27年度（2015年度）～令和10年度（2028年度）
概算費用 104億円

4. 定期点検結果

健全度III

末吉橋は平成26年（2014年）11月に実施した点検では健全度をIIとしていました。その後、河床高の調査で洗掘による橋脚基礎の露出が判明したため、平成28年（2016年）12月に点検要領に基づき点検を行った結果、健全度をIIIと改めました。詳細は別紙のとおりです。

※本計画は、関係機関及び市内橋梁全体の状況等を踏まえて適宜更新を行います。

別紙3 点検表記録様式

橋梁名・所在地・管理者名等

様式1(その1)

橋梁名		路線名	所在地		起点側	緯度	35° 32' 01"
						経度	139° 39' 59"
末吉橋 (フリガナ)スエヨシハシ		県道川崎町田3003・ 県道鶴見溝ノ口1241	横浜市鶴見区上末吉五丁目11-15番地先				
管理者名		点検実施年月日	路下条件		代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路
鶴見土木事務所		2014.11.14 2016.12.08	河川		有	一般道	一次
部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)			点検者	株式会社 丸徳 株式会社 長大	点検責任者		
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (I ~ IV)	変状の種類 (II以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	II	連結部破断	3径間、写真10			
	横桁	II	塗装劣化	1径間、写真11			
	床版	II	ひび割れ・遊離石灰	4径間、写真7			
下部構造		III	基礎の洗掘	4径間、写真1			
支承部		II	腐食	1径間、写真15			
その他		II	伸縮装置:路面の凹凸	2径間、写真2			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I ~ IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
III	河床の洗掘により橋脚基礎が露出しているため、対策が必要。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	
(上り線)1950年	107.86m	6.15m	
(下り線)1964年	107.86m	6.1m	
終点			
			起点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

様式(その2)

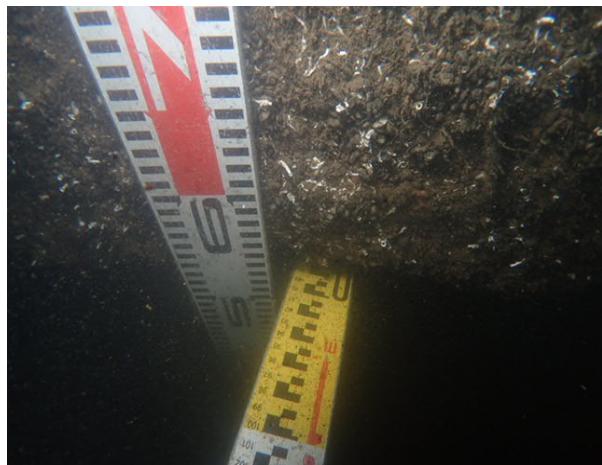
状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分： Ⅱ】	上部構造(横桁)【判定区分： Ⅱ】
	
3径間、写真10	1径間、写真11
上部構造(床版)【判定区分： Ⅱ】	下部構造(橋脚)【判定区分： Ⅱ】
	
4径間、写真7	2径間、写真13

下部構造(橋脚)【判定区分: Ⅲ】



支承部【判定区分: Ⅱ】



4径間、写真1

その他(伸縮装置)【判定区分: Ⅱ】



【判定区分: 】

2径間、写真2

令和 7 年 7 月
横浜市道路局建設部橋梁課

第 2 柳明橋 詳細個別施設計画（架替事業）

1. 事業対象橋梁

橋梁名 第 2 柳明橋
事業箇所 横浜市泉区上飯田町 3606 番地先から
横浜市泉区上飯田町 3600 番地先まで
竣工年 昭和 38 年（1963 年）
橋下条件 鉄道（東海旅客鉄道（株） 東海道新幹線）

2. 事業概要

第 2 柳明橋は、昭和 38 年（1963 年）に架橋された橋梁であり、東海道新幹線を跨ぐ橋梁です。架橋後 60 年が経過し、主桁、床版に鉄筋露出が確認されるなど老朽化が進行しております。補修、補強工事を行うため現場着手したところ、新たに床板の閉合クラックが判明しました。さらには当該クラックの応急補修時に主桁に貫通クラックがあることが判明しました。

これらの補修・補強を実施にかかる費用と新設費用を比較したところ、後者が経済的に優れているため、下記のとおり、第 2 柳明橋の架け替えを行います。

新旧橋梁比較

	新橋	旧橋
橋長	37.0 m	30.5 m
幅員	4.0 m（1 車線）	4.0 m（1 車線）
幅員構成	車道 4.00m+壁高欄 0.55m×2	車道 4.00m+壁高欄 0.3m×2
構造形式	門型ラーメン橋 逆 T 式橋台	RC ラーメン橋、単純 R C T 枠橋 半重力式橋台、ラーメン橋脚

3. 事業計画

事業内容 橋梁架替（更新）
時期 令和 3 年度（2021 年度）～令和 15 年度（2033 年度）
概算費用 約 25 億円

4. 定期点検結果

健全度 III（最新点検年：令和 3 年度（2021 年度））

※本計画は、関係機関及び市内橋梁全体の状況等を踏まえて適宜更新を行います。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	35° 26' 09.98 139° 28' 34.86	橋梁ID 1018031
第2柳明橋 (フリガナ)ダイニリュウメイハシ	市道上和田第41号線	泉区上飯田町3606番地先 ~ 泉区上飯田町3600番地先				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
横浜市	2021.9.27	鉄道	有	一般道	該当しない	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者 日本設計株式会社

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (I ~ IV)	変状の種類 (II以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	主桁	III	ひび割れ	径間2写真1		
	横桁	II	ひび割れ	径間2写真2		
	床版	III	鉄筋露出	径間1写真3		
下部構造	II	鉄筋露出、遊離石灰	径間1写真4・径間3写真5			
支承部	II	腐食	径間1写真6			
その他	II	鉄筋露出	径間3写真7			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I ~ IV)

定期点検時に記録

(判定区分)(所見等)

III 本橋は補修工事中であった。床版、主桁、壁高欄に腐食の著しい鉄筋露出が多数確認された。道路橋の機能に支障が生じる可能性がある。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1963	30m	4.0m
橋梁形式		
一体型(場所打主桁+場所打床版)、一体型(プレキャスト主桁+プレキャスト床版)		

起点側



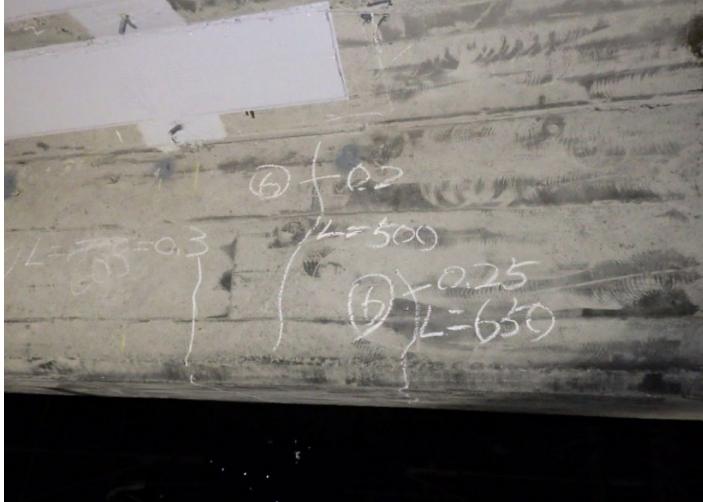
終点側

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p>上部構造(主桁)【判定区分： Ⅲ 】</p> <p>径間2写真1</p> 	<p>上部構造(横桁)【判定区分： Ⅱ 】</p> <p>径間2写真2</p> 
<p>上部構造(床版)【判定区分： Ⅲ 】</p> <p>径間1写真3</p> 	<p>下部構造【判定区分： Ⅱ 】</p> <p>径間1写真4</p> 

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

下部構造【判定区分：Ⅱ】

径間3写真5



支承部【判定区分：Ⅱ】

径間1写真6



その他(地覆)【判定区分：Ⅱ】

径間3写真7



【判定区分：】

三ツ境橋 詳細個別施設計画（更新事業）

1. 事業対象橋梁

橋梁名	三ツ境橋
事業箇所	瀬谷区三ツ境 1 番地 1 地先から 旭区中希望が丘 249 番地 2 地先まで
竣工年	昭和 28 年（1953 年）
橋下条件	鉄道（相模鉄道（株） 本線）

2. 事業概要

三ツ境橋は、第二次緊急輸送路である主要地方道県道横浜厚木線上にあり、相鉄本線を跨線している重要橋梁です。昭和 28 年（1953 年）に建設された当該橋梁は定期点検の結果、複数の損傷が確認されており、早急な対策が必要な「健全度Ⅲ（早期措置段階）」と診断されています。また、熊本地震時に被害が生じた構造と同様のロッキング橋脚を有しております。

これらの補修・補強の実施にかかる費用と新設費用を比較したところ、後者が経済的に優れており、鉄道に近接しているため前者は施工が困難なため、下記のとおり、三ツ境橋の架け替えを行います。

新旧橋梁比較

	新橋	旧橋
橋長	17.0 m（予定）	26.0 m
幅員	12.8 m（路肩・地幅含む）	11.44 m（路肩・地幅含む）
幅員構成	車道 3.5 m × 2 歩道 2.5 m × 2	車道約 4.0 m × 2 歩道約 1.5 m × 2
構造形式	単径間単純鋼鉄桁橋 重力式橋台 2 基	3 径間単純鋼桁橋 重力式橋台 2 基 ロッキング橋脚 2 基

3. 事業計画

事業内容	橋梁架替（更新）
時期	令和 4 年度（2022 年度）～令和 16 年度（2034 年）
概算費用	約 29 億円

4. 定期点検結果

健全度Ⅲ（最新点検年：令和 3 年度（2021 年度））

※本計画は、関係機関及び市内橋梁全体の状況等を踏まえて適宜更新を行います。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 35° 27' 58.90	橋梁ID
三ツ境橋 (フリガナ)みつきょうはし	県道横浜厚木	瀬谷区三ツ境1-1番地先～旭区中希望が丘249-2番地先		経度 139° 30' 19.36	1018519
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路
横浜市	2021.9.27	鉄道	有	一般道	2次

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)	定期点検者 (株)カナコン 源原廣義
--------------------------------	-----------------------

定期点検時に記録				応急措置後に記録		
部材名	判定区分 (I～IV)	変状の種類 (II以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	主桁	II	腐食	第2径間:写真90		
	横桁	III	腐食、欠損	第1径間:写真35,36		
	床版	II	床版ひびわれ	第3径間:写真140		
下部構造		III	橋脚の腐食、欠損	第2径間:写真107,109		
支承部		II	腐食	第3径間:写真163		
その他		II	排水施設の土砂詰り	第3径間:写真166		

道路橋毎の健全性の診断(判定区分I～IV)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
III	横桁、橋脚に腐食進行による孔食、板厚減少が生じている。速やかな対策が必要である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点側		終点側		
1953	26m	11.4m					
橋梁形式							
場所打床版							

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p>上部構造(主桁)【判定区分: Ⅱ】</p> <p>第2径間:写真90 主桁:腐食</p> 	<p>上部構造(横桁)【判定区分: Ⅲ】</p> <p>第1径間:写真35 横桁:腐食、欠損</p> 
<p>上部構造(横桁)【判定区分: Ⅲ】</p> <p>第1径間:写真36 横桁:腐食、欠損</p> 	<p>上部構造(床版)【判定区分: Ⅱ】</p> <p>第3径間:写真140 床版:床版ひびわれ</p> 

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p>下部構造(橋脚)【判定区分: Ⅲ】</p> <p>第2径間:写真107 橋脚:腐食、欠損</p> 	<p>下部構造(橋脚)【判定区分: Ⅲ】</p> <p>第2径間:写真109 橡脚:腐食、欠損</p> 
<p>支承部【判定区分: Ⅱ】</p> <p>第3径間:写真163 支承:腐食</p> 	<p>その他(排水施設)【判定区分: Ⅱ】</p> <p>第3径間:写真166 排水施設:土砂詰り</p> 

令和 7 年 7 月
横浜市道路局建設部橋梁課

盛徳寺跨線人道橋 詳細個別施設計画（撤去事業）

1. 事業対象橋梁

橋梁名 盛徳寺跨線人道橋
事業箇所 戸塚区上倉田町 5 4 4 番地先から
戸塚区上倉田町 2 3 2 番地 1 地先まで
竣工年 昭和 48 年(1973 年)
橋下条件 鉄道（東日本旅客鉄道(株) 東海道本線ほか）

2. 事業概要

盛徳寺跨線人道橋は、JR 東日本の東海道本線ほかを跨ぐ人道橋です。昭和 48 年(1973 年)に建設された当該橋梁は定期点検の結果、主桁、床版や高欄など複数に激しい損傷が確認されており、早急な対策が必要な「健全度Ⅲ（早期措置段階）」と診断されています。

対応については、当該橋梁の歩行者通行機能が隣接する地下道すでに確保されていることから、大規模な修繕は実施せず、撤去が最も効率的・効果的と判断し、撤去を実施します。

現橋	
橋長	27.9m
幅員	2.4m
幅員構成	歩道 2.0m × 1
構造形式	1 径間単純上路式プレキャスト床版プレートガーダー 鋼製橋脚 4 基

3. 事業計画

事業内容 橋梁撤去
時期 令和 5 年度(2023 年度)～令和 7 年度(2025 年度)
概算費用 約 5.9 億円

4. 定期点検結果

健全度Ⅲ（最新点検年：令和元年度(2019 年度)）

※本計画は、関係機関及び市内橋梁全体の状況等を踏まえて適宜更新を行います。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	35° 23' 37.97 139° 32' 8.64	橋梁ID 1017044
盛徳寺跨線人道橋 (フリガナ) セイトクジコセンジンドウキョウ	市道戸塚第573号線	戸塚区上倉田町544番地先～戸塚区上倉田町232-1番地先				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
横浜市	2019/8/20	鉄道				JR東日本(東海道線)

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

JR東日本コンサルタンツ株式会社

定期点検時に記録			応急措置後に記録			
部材名	判定区分 (I ~ IV)	変状の種類 (II以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	主桁	III	腐食	第3径間:写真41,43		
	横桁	-				
	床版	II	剥離・鉄筋露出	第3径間:写真36		
下部構造	II	腐食	第2径間:写真18			
支承部	II	腐食	第3径間:写真47、第5径間:写真67			
その他	III	高欄・地覆の腐食・欠損	第3径間:写真27,32			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I ~ IV)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
III	鋼部材全体に減肉、欠損を伴う腐食、コンクリート部材の欠損を伴う損傷が多数見られ、早急に補修を行う必要性があると思われる。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点側		終点側
1973年	28m	2.0m			
橋梁形式 1径間単純上路式プレキャスト床版プレートガーダー					

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p>上部構造(主桁)【判定区分: Ⅲ】</p> <p>第3径間:写真41 減肉を伴う腐食</p> 	<p>上部構造(主桁)【判定区分: Ⅲ】</p> <p>第3径間:写真43 減肉を伴う腐食</p> 
<p>上部構造(床版)【判定区分: Ⅱ】</p> <p>第3径間:写真36 鉄筋露出を伴う剥離0.6×1.1m</p> 	<p>下部構造(橋脚)【判定区分: Ⅱ】</p> <p>第2径間:写真18 P2橋脚:表面錆</p> 

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

支承部【判定区分: Ⅱ】	支承部【判定区分: Ⅱ】
第3径間:写真47 P3支承部:表面鏽	第5径間:写真67 A2支承部:表面鏽
	
その他(高欄)【判定区分: Ⅲ】	その他(地覆)【判定区分: Ⅲ】
第3径間:写真27 支柱基部:欠損を伴う腐食 $0.22 \times 0.3m$	第3径間:写真32 地覆側面の減肉を伴う腐食 $0.1 \times 0.33m$
	

上郷 2 号橋 詳細個別施設計画（更新事業）

1. 事業対象橋梁

橋梁名	上郷 2 号橋
事業箇所	栄区 上郷町 641 番地先から 栄区 上郷町 400 番地 3 地先まで
竣工年	平成 2 年（1990 年）
橋下条件	市道庄戸第 14 号線

2. 事業概要

上郷 2 号橋は都市計画道路舞岡上郷線を構成しており、環状 3 号線と環状 4 号線を結ぶ第二次緊急輸送路に指定されている重要路線に架かる橋です。本橋梁は平成 2 年（1990 年）に竣工後 30 年以上が経過しており、定期点検において主桁等の腐食が確認され、早急な対策が必要な「健全度 III（早期措置段階）」と診断されています。

また本橋の構造は矢板構造で整備されており、長期間の耐久性を要する仕様ではなく、矢板背面にある基礎杭の状況を把握するためには、橋梁上の交通を止めての矢板撤去による点検が必要となります。舞岡上郷線の交通量は約 16,000 台/日と比較的多い路線であり、現実的ではありません。仮に基礎が腐食し、所要の耐荷力を要していなかった場合、損傷に伴う交通への影響は甚大となります。

今後上記のような維持管理の困難性と、補修・補強の実施にかかる費用と更新費用を比較したところ、後者が経済的にも優位であるため、更新を行います。

新橋	旧橋
橋長	8.4 m
幅員	16.8 m（2 車線）（路肩・地覆含む）
幅員構成	車道 4.25m × 2 歩道 3.65m + 2.85m
構造形式	ボックスカルバート 単純 H 鋼桁 + 鋼製床版 鋼製橋台（土留め矢板）

3. 事業計画

事業内容	橋梁架替（更新）
時期	令和 5 年度（2023 年度）～令和 11 年度（2029 年度）
概算費用	約 10 億円

4. 定期点検結果

健全度 III（最新点検年：令和 6 年度（2024 年度））

※本計画は、関係機関及び市内橋梁全体の状況等を踏まえて適宜更新を行います。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	35.36397 139.57617	施設ID 35.36397,139.57617
上郷2号橋 (フリガナ) (カミコウ2ゴウキヨウ)	市道港南台第297号線	栄区上郷町641 ~ 栄区上郷町400-3				
管理者名	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
横浜市	緊急輸送路未指定、横浜市	無	一般道	二次		

道路橋毎の健全性の診断

告示に基づく健全性の診断の区分
III

橋梁諸元

架設年度	橋長	幅員	橋梁形式
1990	13.3	16.8	上部構造 128-①鋼橋(ボルト又は溶接継手) 下部構造 H形鋼(不明) 基礎構造 19-その他(橋台) 9-その他

※架設年度が不明の場合は「不明」と記入すること。

技術的な評価結果

	定期点検実施年月日		2025.01.08		定期点検者		横浜市道路局	
	想定する状況							
橋(全体として)	B	写真番号 1	C	写真番号 4	A	写真番号 -	(暴風) A	A
上部構造	B	写真番号 2	B	写真番号 5	A	写真番号 -	(暴風) A	写真番号 -
下部構造	B	写真番号 3	C	写真番号 6	A	写真番号 -	(暴風) A	写真番号 -
上下部接続部	B	写真番号 3	B	写真番号 6	A	写真番号 -	(暴風) A	写真番号 -
その他(フェールセーフ)		写真番号		写真番号		写真番号	()	写真番号
その他(伸縮装置)		写真番号		写真番号		写真番号	()	写真番号

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

終点側



起点側

状況写真(様式1に対応する状態の記録)

○上部構造、下部構造、上下部接続部、その他について技術的な評価の根拠となる写真を添付すること。

施設ID		35.36397,139.57617	定期点検実施年月日	2025.01.08	定期点検者	横浜市道路局
構成要素		上部構造		構成要素		上部構造
想定する状況	1-活荷重	構成要素の状態	B	想定する状況	1-活荷重	構成要素の状態
						
写真番号	1	径間	1	部材番号		
備考	(適宜、特記事項など)					
構成要素		下部構造		構成要素		上部構造
想定する状況	1-活荷重	構成要素の状態	B	想定する状況	2-地震	構成要素の状態
						
写真番号	3	径間	1	部材番号		
備考	(適宜、特記事項など)					

特定事象の有無、健全性の診断に関する所見

		施設ID	35.36397,139.57617		定期点検実施年月日		2025.01.08	定期点検者	横浜市道路局
該当部位	特定事象の有無 (有もしくは無)						健全性の診断の区分の前提	特記事項 (第三者被害の可能性に対する 応急措置の実施の有無等)	
	疲労	塩害	アルカリ 骨材反 応	防食機 能の低 下	洗掘	その他			
上部構造	有	無	無	有	—	無			
下部構造	無	無	無	有	無	無			
上下部接続部	無	無	無	有	—	無			
その他(フェールセーフ)	—	—	—	—	—	—			
その他(伸縮装置)	—	—	—	—	—	—			

所見	(適宜、所見を記入)
	【上部構造】 ・主桁の防食機能が発揮されていない可能性が高く、今後劣化が急速に進行し、耐荷力不足になる可能性がある。 ・舞岡上郷線の交通量は約16,000台／日と比較的多い路線であり、上部工に現時点では疲労による亀裂は発生していないが、その可能性はある。
	【下部構造】 ・橋台基礎は長期耐久性を要する仕様ではなく、竣工から30年経過しているが、前面に土留め矢板があることによりその健全性を確認することができない状況にある。 ・過去に、土留め壁背面の土砂流出による基礎の露出や桁端部のジョイントからの排水にさらされていた時期があり、基礎が腐食し所要の耐荷力を要していない可能性が考えられる。 ・地震等により基礎が損傷し上部構造を支持できなくなった場合、交通への影響は甚大となるため早急な対策が必要である。
	【上下部接続部】 ・腐食が確認されている。桁端部のジョイントからの排水にさらされていたことが原因と思われる。今後腐食が進行していくことが想定されるため、排水対策が必要である。

上郷 3 号橋 詳細個別施設計画（更新事業）

1. 事業対象橋梁

橋梁名	上郷 3 号橋
事業箇所	栄区 上郷町 2354 番地 24 地先から 栄区 上郷町 637 番地 3 地先まで
竣工年	平成 2 年（1990 年）
橋下条件	市道庄戸第 27 号線

2. 事業概要

上郷 3 号橋は都市計画道路舞岡上郷線を構成しており、環状 3 号線と環状 4 号線を結ぶ第二次緊急輸送路に指定されている重要路線に架かる橋です。本橋梁は平成 2 年（1990 年）に竣工後 30 年以上が経過しており、定期点検において主桁等の腐食が確認され、早急な対策が必要な「健全度 III（早期措置段階）」と診断されています。

また本橋の構造は矢板構造で整備されており、長期間の耐久性を要する仕様ではなく、矢板背面にある基礎杭の状況を把握するためには、橋梁上の交通を止めての矢板撤去による点検が必要となります。舞岡上郷線の交通量は約 16,000 台/日と比較的多い路線であり、現実的ではありません。仮に基礎が腐食し、所要の耐荷力を要していなかった場合、損傷に伴う交通への影響は甚大となります。

今後上記のような維持管理の困難性と、補修・補強の実施にかかる費用と更新費用を比較したところ、後者が経済的にも優位であるため、更新を行います。

	新橋	旧橋
橋長	5.3 m	8.3 m
幅員	16.8 m（2 車線）（路肩・地覆含む）	16.8 m（2 車線）（路肩・地覆含む）
幅員構成	車道 4.25m × 2 歩道 3.65m + 2.85m	車道 4.25m × 2 歩道 3.65m + 2.85m
構造形式	ボックスカルバート	単純 H 鋼桁 + 鋼製床版 鋼製橋台（土留め矢板）

3. 事業計画

事業内容	橋梁架替（更新）
時期	令和 5 年度（2023 年度）～令和 9 年度（2027 年）
概算費用	約 1.3 億円

4. 定期点検結果

健全度 III（最新点検年：令和 6 年度（2024 年度））

※本計画は、関係機関及び市内橋梁全体の状況等を踏まえて適宜更新を行います。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 35.36350	施設ID
上郷3号橋 (フリガナ) (カミコウ3ゴウキョウ)	市道港南台第297号線			経度 139.57592	35.36350, 139.57592
管理者名	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
横浜市	緊急輸送路未指定、横浜市	無	一般道	二次	

道路橋毎の健全性の診断

告示に基づく健全性の診断の区分	橋梁諸元			
	架設年度	橋長	幅員	橋梁形式
III	1990	8.3	16.8	上部構造 128-①鋼橋(ボルト又は溶接継手) 下部構造 19-その他(橋台) 基礎構造 9-その他

※架設年度が不明の場合は「不明」と記入すること。

技術的な評価結果	定期点検実施年月日		定期点検者		横浜市道路局		
	想定する状況						
橋(全体として)	活荷重		地震		豪雨・出水		その他
	B	写真番号 1	C	写真番号 4	A	写真番号 -	(暴風) A 写真番号
上部構造	B	写真番号 2	B	写真番号 5	A	写真番号 -	(暴風) A 写真番号
下部構造	B	写真番号 3	B	写真番号 6	A	写真番号 -	(暴風) A 写真番号
上下部接続部	B	写真番号 —	B	写真番号 —	A	写真番号 —	(暴風) A 写真番号
その他(フェールセーフ)	—	写真番号 —	—	写真番号 —	—	写真番号 —	() — 写真番号
その他(伸縮装置)	—	写真番号 —	—	写真番号 —	—	写真番号 —	() — 写真番号

全景写真(起点側、終点側を記載すること)



状況写真(様式1に対応する状態の記録)

○上部構造、下部構造、上下部接続部、その他について技術的な評価の根拠となる写真を添付すること。

施設ID		35.36350,139.57592	定期点検実施年月日	2025.01.08	定期点検者	横浜市道路局
構成要素		下部構造		構成要素		上部構造
想定する状況	1-活荷重	構成要素の状態	B	想定する状況	1-活荷重	構成要素の状態
						
写真番号	1	径間	1	部材番号		
備考	(適宜、特記事項など)					
構成要素		下部構造		構成要素		上部構造
想定する状況	2-地震	構成要素の状態	C	想定する状況	2-地震	構成要素の状態
						
写真番号	3	径間	1	部材番号		
備考	(適宜、特記事項など)					

特定事象の有無、健全性の診断に関する所見

		施設ID	35.36350,139.57592		定期点検実施年月日		2025.01.08	定期点検者	横浜市道路局
該当部位	特定事象の有無 (有もしくは無)						健全性の診断の区分の前提	特記事項 (第三者被害の可能性に対する 応急措置の実施の有無等)	
	疲労	塩害	アルカリ 骨材反 応	防食機 能の低 下	洗掘	その他			
上部構造	有	無	無	有	—	無			
下部構造	無	無	無	有	無	無			
上下部接続部	無	無	無	有	—	無			
その他(フェールセーフ)	—	—	—	—	—	—			
その他(伸縮装置)	—	—	—	—	—	—			

所見	(適宜、所見を記入)
	【上部構造】 ・主桁の防食機能が発揮されていない可能性が高く、今後劣化が急速に進行し、耐荷力不足になる可能性がある。 ・舞岡上郷線の交通量は約16,000台／日と比較的多い路線であり、上部工に現時点では疲労による亀裂は発生していないが、その可能性はある。
	【下部構造】 ・橋台基礎は長期耐久性を要する仕様ではなく、竣工から30年経過しているが、前面に土留め矢板があることによりその健全性を確認することができない状況にある。 ・過去に、土留め壁背面の土砂流出による基礎の露出や桁端部のジョイントからの排水にさらされていた時期があり、基礎が腐食し所要の耐荷力を要していない可能性が考えられる。 ・地震等により基礎が損傷し上部構造を支持できなくなった場合、交通への影響は甚大となるため早急な対策が必要である。
	【上下部接続部】 ・腐食が確認されている。桁端部のジョイントからの排水にさらされていたことが原因と思われる。今後腐食が進行していくことが想定されるため、排水対策が必要である。